

令和7年度 第2回 川西市環境審議会部会 次第  
(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会)

日時：令和8年1月13日 14:00～  
場所：川西市役所 4階 庁議室

1. 委員長 あいさつ
2. 委員 紹介
3. 議事  
令和8年度に向けた生物多様性ふるさと川西戦略の方向性等について  
【資料1】【資料2】
4. その他
  - (1) 出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群  
保存のための啓発について 【資料3】
  - (2) 川西市における特定外来生物の確認状況について 【資料4】
  - (3) 川西市における熊の確認状況について
5. 市民環境部長 あいさつ

【配付資料】

- ① 令和7年度 第2回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会） 次第
- ② 令和7年度 第2回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会） 委員名簿
- ③ 令和7年度 第2回 川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会） 座席表
- ④ 【資料1】 生物多様性ふるさと川西戦略評価指標
- ⑤ 【資料2】 生物多様性ふるさと川西戦略進捗状況調査（令和6年度）
- ⑥ 【資料3】 出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について
- ⑦ 【資料4】 川西市における特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の初確認について

令和7年度第2回川西市環境審議会部会（生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会）委員名簿

2026/1/13

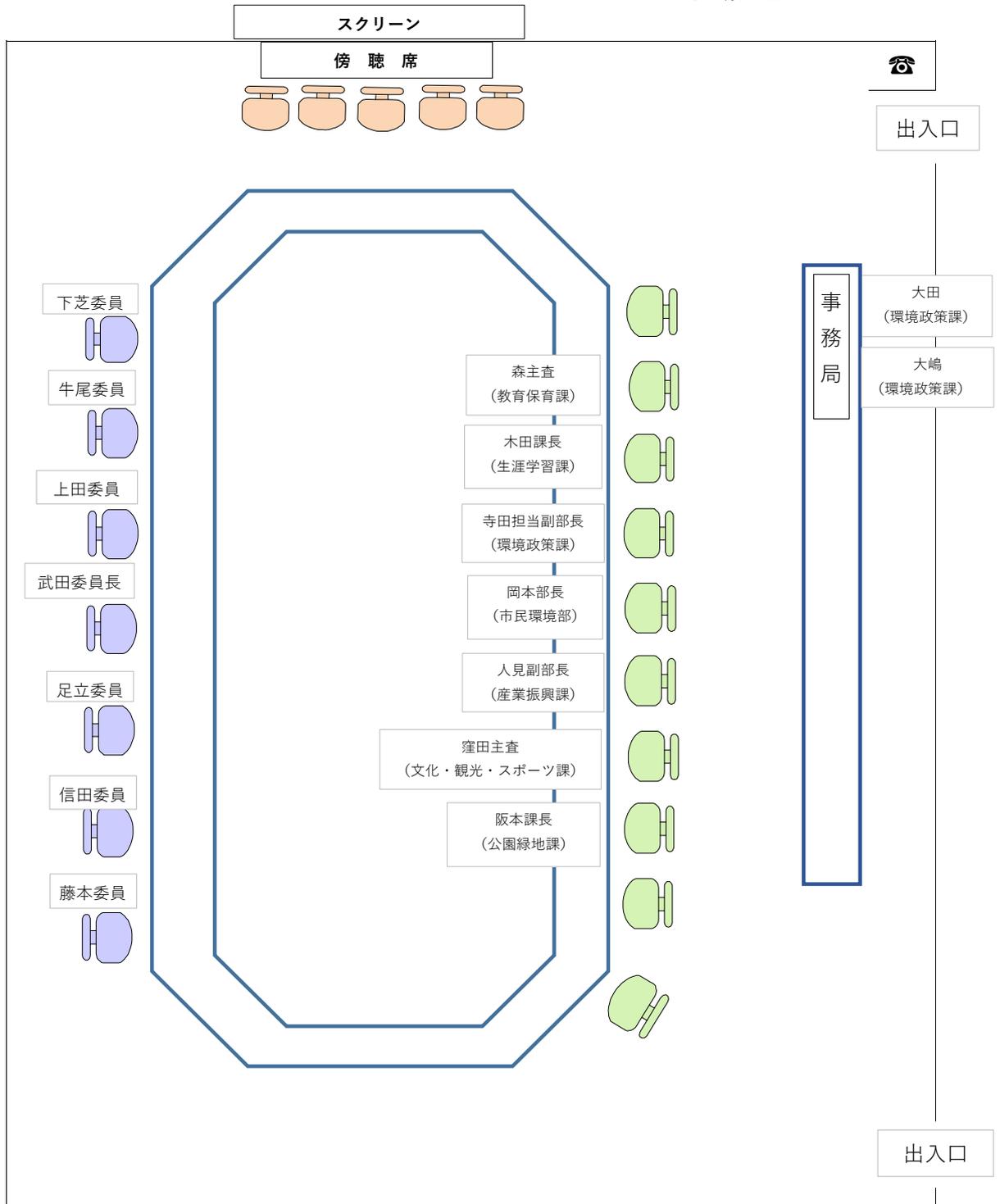
No.		氏名	役職	選出区分	備考
1	委員長	武田 義明	神戸大学人間発達環境学研究科名誉教授	環境審議会委員	
2	委員	足立 隆昭	兵庫丹波オオムラサキの会会長	市民又は 関係団体の代表者	
3	委員	上田 萌子	大阪公立大学准教授	学識経験者	
4	委員	牛尾 巧	一庫公園管理事務所長	市民又は 関係団体の代表者	
5	委員	下芝 勇登	流域ネット猪名川 代表	市民又は 関係団体の代表者	
6	委員	信田 修次	能勢妙見山ブナ守の会副会長	市民又は 関係団体の代表者	
7	委員	藤本 幸一	森林インストラクター	環境審議会委員	

(五十音順)

令和7年度 第2回 川西市環境審議会部会  
(生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会) 座席表

令和8年1月13日(火) 14時～

庁 議 室



生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答											回答欄		
No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	備考	①委員意見(赤字) と市回答(黒字)	②担当課回答(入力必要) (委員意見に対する追加回答や施策 の現状など特筆すべき事項、施策の 変更による目標値の変更など)
1. 環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育													
1	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	保育所	教育保育課	市立保育所の全園児・保育士	—	440 (対象者全員)	366 (対象者全員)					変更なし(今までどおり施策を推進)
2	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	幼稚園	教育保育課	市立幼稚園の全園児・教諭	—	761 (対象者全員)	634 (対象者全員)					変更なし(今までどおり施策を推進)
3	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	小学校	教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年生	3904 (対象者全員)	3,531 (対象者全員)	3,648 (対象者全員)					変更なし(今までどおり施策を推進)
4	◆児童・生徒を対象とした環境教育の実施	各環境教育を受けた1年間の人数(人)	中学校	教育保育課	市立学校の全中学2年生	1243 (対象者全員)	1,206 (対象者全員)	1,243 (対象者全員)					変更なし(今までどおり施策を推進)
5	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	研修を受けた年間の教職員数(人)		教育保育課	市立小学校の全3年・4年・5年教員	45	19	24			対象となる市内3年・4年・5年担当全教員が5年程度で1回は参加できるように工夫。学校ごとに毎年最低1名参加。		変更なし(今までどおり施策を推進)
6	◆教職員や市民を対象とした研修の実施	環境に関する公民館講座を受けた人数(人)		川西公民館		—	78	111					特になし(今までどおり施策を推進)
2. 自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発													
7	◆広報や市HPによる情報発信	1年間の各HPへのアクセス数(件)		環境政策課	増やす	7,289	8,767	8,264					変更なし(今までどおり施策を推進)
8	◆広報や市HPによる情報発信	1年間に紹介した自然環境の数(件)		環境政策課	増やす	4	5	5					変更なし(今までどおり施策を推進)
9	◆本市によるモデル整備や景観計画による情報発信	指標「景観に関心のある市民の割合」(%) (市民実感調査)		都市政策課	85.0	—	82.6	76.9					変更なし(今までどおり施策を推進)
3. 生物多様性保全の取組みの強化													
10	◆市民生活での生物多様性保全の活動の支援	2032年に実施予定のアンケート調査結果		環境政策課	—						2032年に実施予定		特になし

(1)「①委員意見(赤字)と市回答(黒字)」欄の内容に  
加筆修正することがあるかどうか確認してください(こ  
の欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答  
を掲載しています)。\*(生涯学習課と産業振興課の  
み)

(2)前回委員会(R7.7.18)委員  
意見に対する追加回答や施策  
の現状など特筆すべき事項があ  
る場合は「②担当課回答(入力  
必要)(委員意見に対する追加  
回答や施策の現状など特筆す  
べき事項、施策の変更による目  
標値の変更など)」欄に入力して  
ください。

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答											回答欄		
No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	備考	①委員意見(赤字) と市回答(黒字)	②担当課回答(入力必要) (委員意見に対する追加回答や施策 の現状など特筆すべき事項、施策の 変更による目標値の変更など)
11	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	指定・登録文化財(天然記念物)の件数(件)	生涯学習課	—	—	13	14	兵庫県立一庫公園モリアオガエル生息地 R7.3.31新規登録				<p>(委員長)モリアオガエルの天然記念物指定について、どの範囲を指定しているか。                      (生涯学習課) 今回の市の登録としては、ピオトープが2箇所あるが、そこを中心とした片方800㎡、もう片方が1000㎡、ここがちょうど産卵地になっている場所、登録地になっている。文化財審議会でそこを登録するという話に至るにあたって、一庫公園管理事務所や市民がしっかりとそこを守ってきて、産卵地になって指定登録地になっている。ただ、生息地という意味では公園内色々なところにあるので、今後の展開次第ではそれらも登録しようという話が文化財審議会に出ていているという状況である。                      (委員長) 広い範囲を指定した方がモリアオガエルを保全するという意味では有効かと思う。                      (委員) 本年3月31日に市の登録文化遺産として天然記念物の指定を受けた。生息地はセンターの裏、もう一つは少し離れたところ、併せて1800㎡、公園の中で池とその周辺一帯を指定している。7年度も2箇所併せて15、16の卵塊ができて、今オタマジャクシ、幼体になってはねている状況。このまま継続的に管理して、来園者に見てもらえるようにしていきたいと思っている。                      (生涯学習課) 天然記念物指定をすることによって、単にその場を指定するというだけではなく、そこにしっかり管理する方々がいるということで、そこを象徴的に指定して、川西市に貴重な生物がいるということを知っていただく、引き続き管理していただいで、継続的に続いていくという形になるということかなと思う。あくまでも今回の指定箇所を期初として次々と拡がっていきやすいなところである。当然、生物多様性を守るということならば、勝手に盗ることは許されないことである。罰則はないが、啓発していく意義はあると認識している。</p>	<p>(2) 前回委員会(R7.7.18)委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項がある場合は「②担当課回答(入力必要)」(委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項、施策の変更による目標値の変更など)欄に入力してください。</p>
12	◆本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	緑地における維持管理団体数(団体)	公園緑地課	—	—	3	3						<p>特になし(今までどおり施策を推進)</p>

生物多様性ふるさと川西戦略 評価指標

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答											回答欄		
No.	基本戦略	評価指標	担当課	目標値	R3年度 (2021年度)	R5年度 (2023年度)	R6年度 (2024年度)	R7年度 (2025年度)	R8年度 (2026年度)	R9年度 (2027年度)	備考	①委員意見(赤字) と市回答(黒字)	②担当課回答(入力必要) (委員意見に対する追加回答や施策 の現状など特筆すべき事項、施策の 変更による目標値の変更など)
13	◆本市による生物多様性に被害を与える獣害対策などの実施	1年間に捕獲した有害鳥獣及び外来動物の数(頭)	産業振興課	254	193	213	286	捕獲数 アイグマ 180頭、ヌートリア 6頭 イノシシ 34頭、シカ 66頭			<p>(委員)令和6年度の実績として、捕獲数が非常に増えている。内訳としては、アイグマが89頭から180頭に増えたという説明があったが、その結果は、アイグマの糞を増やしたとか、どういことこの結果に表れているのかわかれば教えてほしい。次に、4種類ごとの捕獲の目標値を設定しているのか。</p> <p>(産業振興課)まず1点目、アイグマの捕獲数が前年度に比べて約2倍に増えたことについては、原因は分からないが恐らく母体数が増えたことよって捕獲数が増えたのではと考えている。2点目、それぞれ4種類については鳥獣計画の中で3年ベースの計画を作るが、その中でそれぞれの種別ごとに、前年度の実績等を考慮して目標を作成している。</p> <p>(委員)シカの頭数が少なくなると川西の自然環境が改善されると感じている。別の項目でシカの防護柵を令和6年度に設置していただいたということで良かったなと思っている。他の自治体の話だが、シカの頭数を削減すると植生に回復することがわかっている。捕獲すること自体大変なことと思うが、その分自然環境の改善という成果があるので、ぜひ、シカも入れた有害鳥獣の捕獲を今後もしっかり続けていただきたい。</p> <p>(委員長)シカの捕獲状況、捕獲の仕方というのは、どのようなものか。</p> <p>(産業振興課)基本的には採り戻というシカの足を引っかけ縛り上げて捕獲する量がメインになっているが、黒川、国崎地区はシカが多く、罠だけではどうしても追いつかない状況もあって、一部銃を認めている部分もある。銃を使うということで危険も伴うので、市としてもエリアを拡大できる状況ではない。一部猟友会以外の場所でも許可を出して銃の駆除を行っている。</p> <p>(委員)国崎クリーンセンターで裏山がシカ柵でシカが入らないところに入っているところの植生の違いが明らかである。シカ柵は高さが2mないと意味がない。ただ2mのシカ柵を設置するには費用がかかる。そして点検も必要で、これはコストと手間がかかるが、シカ柵があれば見違えるほど植生が回復する。</p>	(2)前回委員会(R7.7.18)委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項がある場合は「②担当課回答(入力必要)」(委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項、施策の変更による目標値の変更など)欄に入力してください。	
4. 各主体の連携による生物多様性保全活動の継続と拡大													
14	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間の情報交換などの実施回数(回)	環境政策課		1	1	1				R6.10環境フェスタ		環境フェスタの開催時期について、令和7年7月開催後、来場者、参加団体双方にアンケートをとったところ、今後も7月開催を希望する意見が多かったことから、令和8年度も7月開催に向けて準備を進めていく。
15	◆市民、団体、企業などとの連携の構築	1年間に支援したボランティア数	産業振興課	250	267	153	146						変更なし(今までどおり施策を推進)
16	◆兵庫県や市民団体との既存事業の継続	1年間に実施した河川美化活動の回数(回)	美化推進課		12	8	10						特になし(今までどおり施策を推進)

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

回答欄

(1) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には担当課からの報告内容(R7.5)を掲載しています)。  
 (2) 「②委員意見(赤字)と市回答(黒字)」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答を掲載しています)。※教育保育課のみ

(3) (1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要)」(今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)欄に入力してください。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)	
1	基本戦略1	1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	①	就学前園児の環境教育方針	A	園所ごとに計画を立て、園所内の自然を生かして植物や生き物に触れたり、散歩や園外保育の際に地域の身近な自然に触れる機会を意図的にもったり、子どもの興味を広げたり、関心を深めたりした。	園所内の自然だけではなく、散歩や園外保育等を通して、自然や生き物に触れあう機会をもつことができた。また、東立と自然の博物館実施の「エコロプロジェクト」に参加した園所もある。園所内の自然については各園所違いがあるので、栽培物など計画的に自然に触れる機会を今後つづけていく必要がある。	自然に触れる中で、好奇心や探究心を育み、観察したり、調べたりしながら心を育てていきたい。また、年間通じて自然に触れる体験ができるよう計画し、教育・保育活動を実施していく。		変更なし(今までどおり施策を推進)	
2	基本戦略1	1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	②	小学校体験活動(環境体験)	A	小学校3年生を対象とした「環境体験」を実施し、児童が普段生活している地域の自然の中に出かけて環境体験をします。また、本市独自の自然や産物を知り、それらを広めていくことで、環境問題を考え解決していく素地を育んでいきます。	市内16小学校で校区内の地域の畑や河川、公園、蒲名川流域等に赴き、植物や動物等に触れた。	小学校3年生の児童が環境問題に興味関心を持つようになった。また、校区にどのような環境があるかを学ぶことができ、川西市の特色品を学ぶなど、地域の方々と共に活動することができた。地域によっては活動プログラムが確立しておらず、地域での活動が希薄である小学校があることが課題である。	地域参画を目指し、SDGsの視点を取り入れ、各小学校の独自性を活かした小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験プログラムを構築していく。また、3年生の環境体験、4年生の里山体験、5年生の自然学校と系統性をもったカリキュラム(内容やプログラム)の設定を各校へ促していく。	(委員)川西市の体験環境学習で小学校3年生が校区内の体験学習で、4年生は里山体験である。黒川里山センター、一庫公園、国崎カブトセンターという場所がある。4年生は心配しなくていいが、問題は3年生の体験環境学習である。小学生が主体的に環境教育に取り組むことができる環境体験学習のプログラムを構築する必要があるが、3年生の体験学習を担当している森林ボランティア団体、特に北部の団体については、プログラムから現場の指導、前後のメンテナンスもすべて団体がやっている。実際、学校は何もしてくれない、問題なのはボランティア団体の構成員の年齢、ほとんどの方が後期高齢者である。体験学習は山なので体力を使うし、準備もある。今後川西市の3年生の体験学習を続けていけるのかということである。私の実感で言うと、学校の先生も忙しくてそれどころではない。体験環境学習はボランティア団体にお任せですという状況。 (教育保育課)教員も各年をなにか統一した意識を持っていないという実態があるので、必ず打合せをする際に研修を5年目までに受けたいことを計画している。まず当事者意識を持ってもらったうえで打ち合わせに臨むということが必要であると考えている。また、個々の先生によって環境に対する関心の度合いが違いますが、先生個人に頼るのではなく、学校のカリキュラムとして位置づけることによって、同じ内容を行っていくように仕掛けていきたいと思う。 (委員)実施に際してはどの程度学校と打ち合わせをしているのか。 (委員)私が実施しているところでは、学校は日程の確認だけでいい。実施内容については我々がプログラムを組んで実施の詳細を決めて、先生に連絡するといふ流れである。他団体も同じような感じだと思う。 (委員)丸投げの状態で、それはまずいのではない。先生がもう少し知っておいてもらわないと、生徒を出したら後は任せでは困る。 (委員)北摂で里山体験ができる場所が限られている。ということは、限られた場所なのでマニュアル化できる。ボランティア団体だろうが先生だろうがどちらでもできる仕組みを作れば、ボランティア団体が高齢化しても先生で対応できると思う。 (教育保育課)補足です。確かに学校間でばらつきがあると思う。一方で事前の打合せと事後の反省会を行っている学校もいくつかある。年度当初に教育委員会から環境体験についての担当者説明会を行っている。その場を周知することで打ち合わせを密にするということも伝えていきたい。少し改善に向けて動きたいと思っている。	学校のカリキュラムに位置づいた活動であり、教職員の知識及び当事者意識を高めるための研修を継続して行う(毎年～5年目を対象に各校1名以上の参事研修)。また3年生・4年生・5年生と系統性をもたせたカリキュラムとなるよう、各校の活動内容の横展開を行う。
3	基本戦略1	1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	③	里山体験学習	A	小学校4年生を対象に「里山体験学習」を実施し、日本の里山である黒川地域を体験活動の場として、自然に対する畏敬の念をはじめ、生命のつながり、環境保護の大切さを実感し、美しい感動する心が育んでいきます。本市の自然特性を活かした、独自の環境教育です。	市内16小学校で2回以上実施した。黒川地区に赴き、植物や動物等に触れた。また、黒川地域の方々に触れ、里山と共に人間がどのように生活してきたかを学習した。社会教育団体の方々と共に、里山資源を使い、木工クラフト等を作成した。	黒川地区のサポーターの数を増やし、少人数による体験学習を実現できるようにする。サポーターの方々の資質向上を目的とした実地研修や、活動内容をより良くしていくための打ち合わせを増やしていく。		変更なし(今までどおり施策を推進)	

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

回答欄

(1) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答を掲載しています)。  
 (2) 「②委員意見(赤字)と市回答(黒字)」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答を掲載しています)。  
 ※教育保育課のみ

(3) (1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要) (今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)」欄に入力してください。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要) (今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)		
4	基本戦略1	1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	教育推進部	教育保育課	A	市内16小学校で兵庫県内での長期宿泊体験を通して、兵庫県の子供たちと交流し、自然・地域社会に触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育てていきます。	小学校5年生を対象に「自然学校」を実施し、児童が兵庫県にゆかりのある人々や自然、地域社会に触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育てていきます。	引き続き、充実した自然学校を実施したい。そのために今年度から始まった自然学校人材バンクの活用や、市のHPを通じた看護師などの外部人材の募集力を入れている。また、3年生の環境体験、4年生の里山体験、5年生の自然学校と系統性をもったカリキュラム(内容やプログラム)の設定を各校へ促していく。		変更なし(今までどおり施策を推進)		
5	基本戦略1	1)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	児童・生徒を対象とした環境教育の実施	教育推進部	教育保育課	A	中学校2年生を対象に地域に学ぶ「トライやる・ウィーク」を実施し、地域や自然の中で、生徒の主体性を導出した様々な活動や体験を通して、地域に学び、自分を見つめ、他人を思いやる心を育てるとともに、自立性を高め「生きる力」を育てていきます。	市内7中学校の2年生と川西農道学校の中学部2年生について県立一庫公園などで実施し、地域や自然の中で、地域の方々と交流し、自然・地域社会に触れ合い、理解を深めるなど、長期宿泊体験を通して、自分で考え、主体的に判断し、行動し、よりよい問題を解決する力や、生命に対する畏敬の念、感動する心、共に生きる心を育むなど、「生きる力」を育てていきます。	地域参画の視点を継続する中で、SDGsの視点を引き続き取り入れていく。地域の事業やボランティアの「トライやる・ウィーク」に今後も取り組んでいけるように関係を構築していく。		変更なし(今までどおり施策を推進)		
6	基本戦略1	2)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	教職員や市民を対象とした研修の実施	教育推進部	教育保育課	A	教職員を対象に「環境体験研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを体験し、自然・生物・環境教育など体験的な研修を行っています。	教職員を対象に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、日本一の里山である黒川地域・猪名川水系・身近な自然などを教職員が体験した。	継続的に「環境体験研修」と「里山フィールド研修」を実施し、専門的な知識の定着を教職員に促すと同時に、川西市を教材とした環境学習プログラムの定着も同様に取り組む。		変更なし(今までどおり施策を推進)		
7	基本戦略1	2)	環境教育の充実による「ふるさと川西」意識の醸成及び生物多様性教育	教職員や市民を対象とした研修の実施	市民環境部	川西公民館	A	公民館などでの学習の充実を図り、様々な世代への環境教育も充実させていきます。	清和台公民館(「ゆめたる見学とロボットクラブ」と「SDGs教材を使い、クリスマスツリー作り」講座)、川西公民館(子ども生もの観察隊〜小川で水生生物観察〜)、けやき坂公民館(自然観察セミナー「早生川」の生き物・ふしぎ・発見)、南公民館(園芸講座 音テアプログラム講座〜瓶の中につくる癒やしの空間〜)東谷公民館(冬の野鳥観察)を実施し、5館合計で111人が環境に関する公民館講座を受講した。	各館で地域の特性に沿った環境学習を実施した。各館で地域ニュースと合わせて工夫しながら講座を開催していることから、全館で実施とはなっていない。	関係所管課と協力して環境学習の充実を図る。		変更なし(今までどおり施策を推進)	
8	基本戦略2	1)	自然に関する情報発信による生物多様性保全の普及・啓発	広報や市HPによる情報発信	市民環境部	環境政策課	A	市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわししの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。	市HPや広報かわにしなどの媒体を通じ、かわししの自然環境、生物多様性に関する情報を定期的に発信することにより、ふるさと川西のすばらしさを伝えていきます。	以前から市HPに自然活動団体や企業を紹介するページを設けている。令和6年度には、ロボナウ・セツツツツの公開やクヌギの植樹など自然活動団体の活動を広報誌に掲載した。	市広報誌を中心に自然活動団体の活動を紹介することが出来た。また、環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。その他、自然活動団体の活動をPRする場としてのパンフレットラックを市役所と中央図書館に設置した(令和7年度から運用)。今後は市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していく。また、市HPの各団体の紹介ページを更新していくとともに活動内容を発信していく必要がある。	市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していくとともに活動団体や企業を紹介するページの内容等を更新し、引き続き情報発信に努める。		令和7年10月に市HPで自然活動団体や企業を紹介するページの内容等の一部更新した。引き続き市民が閲覧しやすいように市HPを改訂していくとともに自然活動団体や企業を紹介するページの内容等を更新し、情報発信に努める。また、令和7年10月下旬から緊急電話が運行している。SDGsの達成に向けた啓発メッセージを発信する特別企画列車「SDGsトレン 未来のゆめ・まち号」に、川西市内で活動する自然活動団体や企業の取組みについてのポスターを掲示し活動のPRを行った。その他、前回もお伝えしたが、令和7年5月に自然活動団体の活動を自由に参加できる場として市役所1階とアステ川西4階の川西市立中央図書館にパンフレットスタンドを設置した。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

回答欄

(1) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には担当課からの報告内容(R7.5)を掲載しています)。  
 (2) 「②委員意見(赤字)と市回答(黒字)」欄の内容に加筆修正することがあるかどうか確認してください(この欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答を掲載しています)。  
 ※教育保育課のみ

(3) (1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要)」(今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)欄に入力してください。

No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)
9	基本戦略2	1)	②	国や兵庫県が生物多様性に関する国や兵庫県の情報について、市HP上で概要版の掲載やリンクを見やすい形で閲覧でき、情報が入りやすくなるよう整備します。	市民環境部	環境政策課	A	国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。		変更なし(今までどおり施策を推進)
10	基本戦略2	1)	③	市HPや観光マップを通して、市の自然や歴史、市内の観光地のPRを行っています。	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	市観光協会と協力し、市の自然や歴史、観光地を紹介するHPを更新した。	HPを更新し、最新の市の自然・観光の情報を発信した。	市内に整備している看板の情報更新やHPの見直しを行いながら、市内の自然や歴史、観光地のPRを進めていく。		HPを更新し、最新の市の自然・観光の情報を発信した。市全域で設置している看板の活用や情報の一元化を図るため、改めて看板の所在位置や掲載内容を点検しており、今後も活用していきたい。
11	基本戦略2	1)	④	本市の特産品であるイチジク、クワ、モモなどについて、市広報誌や市HP等を用いてPRし、地産地消を進めます。	市民環境部	産業振興課	A	モモ及びイチジクの即売会を実施。クワは直売所にて特設ブースを設けて販売され、市HPでPRを行った。また、市内で採れた作物を「川西なごち」とし、PRのぼりを作成・配布し、市HPでもPRを行った。さらに、イチジクは、航空会社とネット専門店の協力で東京へ空輸し、イチジクが販売し、市HP等でPRを行った。	モモ及びイチジクの即売会を実施した。市HP以外にも、PRのぼり「川西なごち」の設置、航空会社やネット専門店のSNSなど多数の紹介がなされたことで市内外に特産品をPRできた。	引き続き特産品の即売会を実施する。市HPのほか、直売所マップに情報を追加する等、積極的にPRする。		H28に商標登録した特産「イチジク「朝採りの恵み」」の更新を行う。
12	基本戦略2	1)	⑤	JR川西池田駅前ロータリーのクヌギを台場クヌギに仕立てるなど、市街地において、北部の里山の自然を身近に感じられるようになります。	土木部	公園緑地課	A	昨年度キセラ川西せせらぎ公園のクヌギの台場仕立てを実施したものについては不要枝の剪定を行い、クヌギの成長、北部里山の自然を身近に感じられるよう努めた。	クヌギは順調に育っており、駅前やキセラ川西を行き交う人々に里山の自然を身近に感じられる場を創出している。	より多くの市民に里山を感じてもらえるよう、キセラ川西せせらぎ公園に続き、タイムングを見てJR川西池田駅前ロータリーについても台場クヌギへの展開を進める。		11月にJR川西池田駅前ロータリーにおけるクヌギ(3本)の台場仕立てを実施した。今後も駅前、キセラ川西において行き交う人々に里山の自然を体感できるような維持管理を継続する。
13	基本戦略2	2)	①	市役所本庁舎南側壁面やキセラ川西プラザ、市消防本部に太陽光発電システムを設置し、モニターで観察できるようにするなど、地球温暖化対策(地球温暖化による生きものの衰退・絶滅の防止)として再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を進めていきます。	市民環境部	環境政策課	A	キセラ川西プラザと消防本部についてはモニターに発電状況を見ることが出来る状態であり、実場者に再生可能エネルギーの普及促進のための啓発を行うことが出来た。一方、市役所モニターについては部品の不具合により活用できていない。	キセラ川西プラザと消防本部については引き続きモニターで再生可能エネルギーの啓発を行う。市役所についても啓発の再開に向けモニター部品の交換等を検討する。		変更なし(今までどおり施策を推進)	
14	基本戦略2	2)	②	川西市景観計画により、市の自然や歴史文化をはじめとする様々な景観資源を活用し、魅力的な景観を周知するとともに、景観形成に向けた取り組みの啓発を進めていきます。	都市政策部	都市政策課	A	HPへの活動紹介(文化財ガイド、能勢電鉄)・SNSでの川西市の見所(景観樹木の見境)の紹介等の市民や事業者の活動をインターネットを使って発信することにより、参加と協働を進める仕組みづくりを行った。	市民や事業者の活動をインターネットに掲載することにより、事業者や市民にも情報発信できた。	今後もSNSや動画を活用することで積極的な情報発信を行い、川西らしい魅力的な景観の形成を進めていく。		阪急電鉄が運行している、SDGsの達成に向けた啓発メッセージを発信する特別企画列車「SDGsトレイン 未来のゆめ・まち号」に、令和7年10月下旬から黒川の里山景観を周知するポスターを掲示し、魅力的な景観のPRを行った。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

回答欄

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)
15	基本戦略3 生物多様性保全の取組みの強化	1)	市民生活での生物多様性保全の活動の支援	① 外来種対策の推進 外来種の侵入経路、影響、対策の必要性や市民でも実施できる外来種対策の方法などをまとめ、市HPなどで広報するなど、外来種に対する対策を進めます。	市民環境部	環境政策課	A	以前からヒアリやセアカゴケグモ、アカミガメ、アカカサザガエビについての対策、駆除方法などを市HPに掲載しているが、R6年度は主に兵庫県から通知されたクミアカツヤカミキリ、ナガエツルグサゲルなどの情報についても速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に情報を発信した。	主に県から提供された特定外来生物の指定情報について、市内部で情報共有するとともに速やかに市HPに掲載したり、自然活動団体にメールで情報を発信することができた。	引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。	②委員意見(赤字)と市回答(黒字) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正する(2)ことがあるかどうか確認してください(この欄にしてください(この欄には前回委員会(R7.7.18)の委員意見と市回答を掲載しています)。※教育保健課のみ)。	③(1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項」欄に入力してください。  令和7年7月に県、市公園緑地課、環境政策課でクミアカツヤカミキリの合同マストロールを実施した際に市内でクミアカツヤカミキリが発見されたことに伴い、県の記者発表状況を市役所で内部共有し、市HPへの掲載や自然活動団体へのメールで情報を発信した。
16	基本戦略3 生物多様性保全の取組みの強化	2)	本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	② 文化財保存啓発 天然記念物などの貴重な財産である文化財の保全を進めるとともに、その普及啓発、活用を進めていきます。	市民環境部	生涯学習課	A	兵庫県立一庫公園モリアオガエル生息地を川西市登録文化遺産(天然記念物)に登録した。	川西市登録文化遺産(天然記念物)の新たな登録を進めることができた。	指定・登録文化財(天然記念物)の普及啓発、活用を推進する。		変更なし(今までどおり施策を推進)
17	基本戦略3 生物多様性保全の取組みの強化	2)	本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	② ため池などの保全 農業用灌漑のため、水利組合が管理するため池や農業用水路などの補修・改修、水漏防止のため、安全柵の設置などへの支援を行っています。今後の改修などに際しては、ため池などにおける生物多様性の重要性に配慮し、進めていけるよう検討していきます。	市民環境部	産業振興課	A	地元水利組合等が実施する農業用施設の補修や改修の工事について支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮して進めるよう依頼した。	地元水利組合等が農業用施設の補修や改修の工事を実施することで、農業用施設の適切な管理やため池などの保全を行うことができた。	今後も地元水利組合等が実施するため池や農業用水路などの補修や改修の支援を行うとともに、工事に際しては生物多様性の重要性に配慮するよう依頼する。		変更なし(今までどおり施策を推進)
18	基本戦略3 生物多様性保全の取組みの強化	2)	本市による文化財の保全及び生物多様性向上の事業の実施	③ 生物多様性に配慮した公園・緑地管理の推進 公園整備の際は、在来種の植樹に努め、特定外来生物の防除に向けた管理を実施していきます。緑地は、生物多様性の観点から、保全する維持管理団体が継続して活動を行えるよう、公園、緑地など、みどりの維持管理活動を行う団体間の連携により、活動を高め合う仕組みづくりを行います。	土木部	公園緑地課	A	開発による提供公園について、事業者との協議を行い、在来種の植樹に努めた。また、市内緑地において、市民活動団体主体の維持管理、緑地の清掃活動により集められたごみの回収を行うなど活動を支援し、まち山の保全に努めた。3団体が継続して維持管理を行うことができた。	公園整備の際は、在来種の植樹に努める。また、市内緑地において、市民活動団体主体の維持管理、緑地の清掃活動により集められたごみの回収を行うなど活動を支援し、まち山の保全に努めた。3団体が継続して維持管理を行うことができた。	公園整備の際は、在来種の植樹に努める。引き続き、団体の支援や連携を図り、緑地の維持管理を行う市民活動団体に関する情報発信を行う。		変更なし(今までどおり施策を推進)

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降は廃止、または実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討する必要がある。

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

回答欄

No.	基本戦略	施策 No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)
19	基本戦略3	3)	ナラ枯れ対策	カンナガキクイムシによるナラ枯れ被害が西日本を中心に発生しているため、被害拡大防止に取り組んでいきます。	市民環境部	産業振興課	A	被害最先端地の指定外のため、ナラ枯れの被害拡大防止事業は行わなかった。	ナラ枯れ被害の確認数が減少し、被害最先端地から外れている。	県と連携し、ナラ枯れの発生状況等、動向を注視する。		(1) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正する(2) ことがあるかどうか確認してください(この欄には担当課からの報告内容(R7.5)を掲載しています)。 (3) (1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要)」(今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)欄に入力してください。
20	基本戦略3	3)	有害鳥獣対策	川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物の被害などの防止を目的に、個体数の調整などとしてイノシシやシカの捕獲・処分を行っています。また、鳥獣による食害防止対策としての防護柵設置等に対する補助を行っています。	市民環境部	産業振興課	A	県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にイノシシやシカの捕獲及び処分を実施した。	県猟友会川西支部協力のもと、一定数の捕獲・処分が成果が上がっているが、農作物被害は無くならない。	引き続き県猟友会川西支部と連携し、イノシシやシカの捕獲・処分を行い、個体数管理を図っていく。		今後の方向性等変更なし。現状の方向性のまま施策を推進していく。
21	基本戦略3	3)	外来生物対策	農作物の被害などの防止、希少種を含めた在来生態系の保全・回復のため、特定外来生物であるアライグマ・ヌートリアを対象に捕獲・処分を行っています。また、農作物被害防止対策に対する補助を行っています。さらに、セアカゴケグモ、ヒアリ、アルゼンチンアリや、今後サクラやモモへの被害の拡大が懸念されるクビアカツヤカミキリ)について、注意喚起や駆除に関する啓発を行っています。	市民環境部	産業振興課 環境政策課	A	【産業振興課】 県猟友会川西支部協力のもと、川西市鳥獣被害防止計画に基づき、農作物被害の防止等を目的にアライグマやヌートリアの捕獲及び処分を行った。 【環境政策課】 セアカゴケグモ、ヒアリに加え、クビアカツヤカミキリ)について、国・兵庫県からの情報を速やかに市内部で情報共有するとともにHP、メールなどを活用し、市民、自然活動団体等に注意喚起や駆除に関する情報を発信した。	【産業振興課】 特にアライグマの捕獲依頼申請数及び捕獲数が多く、農作物被害等が多数発生している。 【環境政策課】 国・兵庫県からの情報を市内部で情報共有するとともに、市民や自然活動団体等へ速やかに発信することができた。	【産業振興課】 引き続き県猟友会川西支部と連携し、アライグマやヌートリアの捕獲・処分を行い、農作物被害等の防止に努めている。 【環境政策課】 引き続き、国や兵庫県の動きを確認し、迅速な情報発信に努める。		変更なし(今までどおり施策を推進)
22	基本戦略4	1)	生物多様性に関する情報交換の場の提供	生物多様性に関する取組みを行っている市民、市民活動団体、事業者などが交流、情報交換などができる機会や場所を設けます。 黒川を中心としたまちづくり方針)に基づき、旧黒川小学校グラウンド内に川西市黒川里山センターを整備します。里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、生物多様性に関する情報を発信していきます。	市民環境部	文化・観光スポーツ課	A	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、令和6年に川西市黒川里山センターの南北棟を耐震改修工事した。 黒川里山センターは令和5年度より指定管理者による管理運営を行っており、旧黒川小学校の南北棟で里山学習の受け入れや生物多様性に関するフィールドワークを周辺施設や関係団体と協力して行った。	川西市黒川里山センターの管理運営を指定管理者が行い、旧黒川小学校南北棟を拠点として生物多様性に関する事業を行うことができた。引き続き情報発信していくとともに、地域外の担い手である関係人口の拡大による地域課題の解決及び活性化につなげる必要がある。	令和6年度に南北棟の耐震改修工事を行った。今後もセンターを中心として情報発信を行っていく。		里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として、令和5年度に川西市黒川里山センターの新棟を設立し、令和6年度に南北棟を耐震改修工事を実施した。 黒川里山センターは令和5年度より指定管理者による管理運営を行っており、新棟や旧黒川小学校である南北棟で里山学習の受け入れや生物多様性に関するフィールドワークを周辺施設や関係団体と協力して行っている。
23	基本戦略4	1)	森林ボランティアの支援	森林の保全に取り組み森林ボランティア団体の活動支援を行い、日本一の里山と言われる黒川地区の里山を含めた森林の整備に努めています。	市民環境部	産業振興課	A	新たな支援制度により黒川地区の里山を含めた森林の整備を行う市内の活動団体に補助金を交付することで、活動支援を実施した(関連項目No.20)。	支援対象や支援額の拡充により、4団体に計80万円の支援を実施した。支援対象を拡充したが、申請団体数は増加していない(関連項目No.20)。	森林保全に取り組み団体等へ支援することにより、森林の整備や保全に努めていくとともに、支援制度の活用が進むよう周知を図る(関連項目No.20)。		今後の方向性等変更なし。現状の方向性のまま施策を推進していく。

生物多様性ふるさと川西戦略 進捗状況調査 (令和6年度)

自己評価の評価方法  
 A 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も継続的に実施する。  
 B 目標に向かって事業を実施することができた。次年度以降も実施できるかは不明。  
 C 実施できていないが、次年度以降に実施する予定である。  
 D 実施していない。実施内容等の再検討が必要がある。

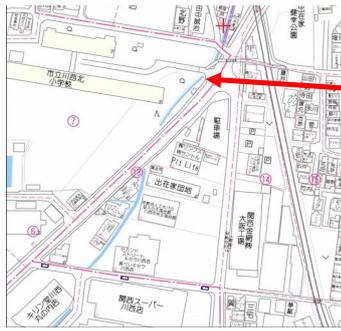
令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答

令和7年度第1回生物多様性ふるさと川西戦略推進委員会(R7.7.18)での報告内容、委員意見及び委員意見に対する市回答										回答欄		
No.	基本戦略	施策No.	施策名称	施策内容	担当部	担当課	令和6年度自己評価	令和6年度の実施状況(2024年度)	令和6年度成果と課題	①今後の方向性	②委員意見(赤字)と市回答(黒字)	③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項)
										(1) 「①今後の方向性」欄の内容に加筆修正する(2) ことがあるかどうか確認してください(この欄には担当課からの報告内容(R7.5)を掲載しています)。 ※教育関係のみ	(3) (1)(2)について予算要求や実施計画の策定などを経て加筆修正が必要な場合、令和7年度以降の具体的な施策、委員意見に対する追加回答、施策の現状など特筆すべき事項などがある場合は「③担当課回答(入力必要)今後の方向性、具体的な施策、委員意見に対する追加回答や施策の現状など特筆すべき事項」欄に入力してください。	
24	基本戦略4	1)	③	自然や景観への保全活動をサポート	都市政策部	都市政策課	A	・HPへの活動紹介やまちづくり支援事業の募集案内の掲示等の住民・事業者等による景観形成の取組みや支援により、保全活動へのサポートへ繋げるよう情報発信を行った。	・市民団体の活動をインターネットを使って掲載することにより、知ってもらい興味を持ってもらうことで保全活動へのサポートへ繋げるよう情報発信ができた。現在掲載できている件数が少なく、まだ市内には知られていない団体、活動があるため、順次発信していく。	住民・事業者等による景観形成の取組みをホームページで紹介する等、今後もインターネットを活用し積極的な情報発信を行う。		変更なし(今までどおり施策を推進)
25	基本戦略4	1)	④	事業者との連携及び生物多様性戦略作成の応援	市民環境部	環境政策課	A	環境月間の展示を6月に実施した。また、環境フェスタを10月に開催した。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめはたの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができた。	環境フェスタを通じて団体、事業者の活動を市民に紹介することが出来た。	今後も環境フェスタなどを通じて団体、事業者と連携・協力を維持していきたいと考えている。		環境月間の展示を6月に実施した。また、環境フェスタを7月に開催した。その中で国崎クリーンセンター啓発施設ゆめはたの活動内容を紹介するなど、団体、事業者と連携・協力を維持することができた。
26	基本戦略4	2)	①	北摂里山博物館構想	市民環境部	文化・観光・スポーツ課	A	都会近くに残された北摂の里山地域一帯を「北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)」として整備し、生産活動はもとより環境学習、野外活動など、訪れる人々それぞれのニーズに合わせて活用していくことを通じ、北摂里山の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげていく取組みを兵庫県と連携して実施していきます。	里山保全や教育の振興、観光の推進を図るとともに、地域住民に限らず市内外から様々な方が集まる交流拠点として黒川里山センター南棟を耐震改修工事した。	令和6年度に南北棟の耐震改修工事を行い、3棟揃った運営を開始している。センターを中心とした北摂里山を伝統的に保全しつつ、地域の活性化につながる取組を展開していくために足を選んでもらうための方法を協議していきたい。		川西市黒川里山センター新棟南北棟の管理運営を指定管理者が行い、里山保全を目的に子どもや大人が環境を活かして学ぶ機会になる里山体験学習等の事業を行っている。HPの更新や指定管理者のSNSなどにも連携を行い、黒川里山センターに興味を持ってもらえるような仕掛け作りを続けている。
27	基本戦略4	2)	②	NPOなどと連携した河川美化の実施	美化衛生部	美化推進課	A	落名川水系の美化環境を保全し、豊かな生物多様性を守るために、NPOなどが実施する河川美化活動を支援し、発生した廃棄物の収集、処理などを行っています。	NPOなどが実施する河川美化活動の支援として、ごみの収集を10回実施した。	NPOなどと連携し、ごみの収集を行った。	引き続き、NPOなどが実施する美化活動を支援していく。	変更なし(今までどおり施策を推進)
	全体、その他											

出在家町（川西北小学校横）キセラ川西市街地水路水生生物群保存のための啓発について

<水路周辺地図>

掲示場所



①



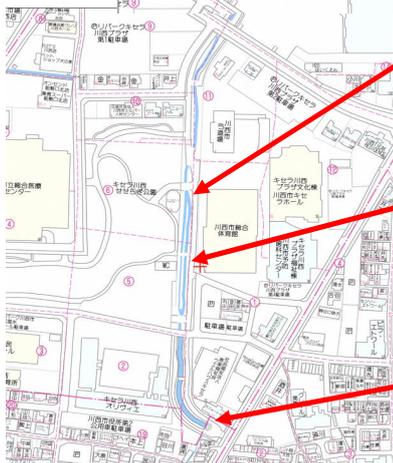
②



③



④



⑤



掲示場所①（川西北小学校前）

掲示場所②～⑤（キセラ川西地区内）

掲示場所①（川西北小学校前）

すいろ **ざいらいしゅ**  
**水路に在来種がいっぱい**

**がいらいしゅ**  
**外来種がふえると…**

**がいらいしゅ**  
**外来種がいると、なにがちがうだろう？** 川西市

**がいらいしゅ**  
**外来種がふえると**

- ほかの魚を食べて生き物がへる。
- ザリガニが水草や貝をたべて水をきれいにできなくなる。
- たべものやかくれるところが無くなるとほかの生き物がすめなくなる。

**おおくの生き物が  
すめることがたいせつ**

ざいらいしゅ 在来種	がいらいしゅ 外来種
① ミナミメダカ	⑩ シマドジョウ
② オイカワ	⑪ カワニナ
③ ニゴイ	⑫ ミナミヌマエビ
④ ナマズ	⑬ ホタル幼虫
⑤ カワムツ	⑭ カゲロウ幼虫
⑥ キンプナ	⑮ エビモ
⑦ ヨシノホリ	⑯ シジャクモ
⑧ カマツカ	⑰ オオクチバス
	⑱ ブルーギル
	⑲ アメリカザリガニ

すいろ **せいぶつたようせい**  
**水路の生物多様性をまもろう** 川西市

掲示場所②～⑤（キセラ川西地区内）

生物の多様性を守る大切さ  
 ここキセラ川西の水路には貴重な自然が残っています



昭和23年航空写真  
 昔は田園風景が広がっており  
 多くの自然が残っていました。  
 その後都市開発が進み  
 徐々に現在の姿になる過程で  
 生物たちは水路などに残され  
 たと考えられます。



魚類、水生昆虫をはじめ  
 絶滅危惧種に指定された  
 生物も多く残っています。  
 しかし人間との距離が近  
 いために環境変化を受け  
 やすいです。  
 地域に住む私たちが見守  
 っていく必要があります。

外来種問題も… 外来魚の侵入

**アメリカザリガニの繁殖**  
 水路ではアメリカザリガニが繁殖して  
 おり、在来の生き物を食べたり住処を奪うな  
 どの問題が起きています。  
 乗付付き特定外来生物に指定されており、  
 放すことが禁止されています。  
 捕まえることは問題ありませんが他の場所  
 に移さないようにしましょう。

特定外来生物のブラックバス、ブルーギルがいると希少  
 な在来生物を捕食してしまいます。  
 また、本来日本にはあまりいない  
 ノコイは大きな湖や大河川など  
 いる魚で浅い川にはあまりいません。  
 現在埼玉県川越の  
 多くの場所で見られるのは、飼育型ノコイと呼ばれる人間が  
 持ち運んできた外来種です。ノコイは水草、貝類、水生昆  
 虫、小型の魚類まで何でも食べつくし、在来の生き物が  
 すみずらい環境になってしまいます。



川西市が誇る自然  
 みんなでまもろう！

増えすぎたザリガニの駆除や  
 希少生物の生息調査など



川西市

キセラ川西の水路



## 川西市における特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の初確認について

サクラやモモ・ウメなど主にバラ科の樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」のフラス及び幼虫5頭を、川西市内の市道街路樹（川西市小戸）で確認しました。

本県では、令和4年度以降、明石・芦屋・神戸・西宮・三田・丹波・丹波篠山・宝塚市内の街路樹や公園樹などで、成虫やフラス（幼虫のフンと木くずが混ざったもの）が確認されており、川西市内での確認は今回が初めてです。

### 1 阪神北県民局合同パトロールの実施

- (1) 実施日 令和7年7月29日（火）、30日（水）
- (2) 調査内容 7月30日（水）の合同パトロールにおいて、阪神北県民局と川西市が川西市小戸の街路樹を調査。実施箇所の桜並木（内1本）でフラスを発見。
- (3) 県自然鳥獣共生課へ情報を共有。

### 2 緊急対応

- (1) 実施日 7月31日（木）13:30～16:00
- (2) 実施内容
  - ア. 県自然鳥獣共生課から専門家を派遣
  - イ. 被害木において、幼虫5頭を捕殺
  - ウ. 被害木の緊急伐採と切り株の防除作業を実施



### 2 今後の対応

同カミキリの生息範囲はさらに広がっているおそれがあるため、引き続き、市などと連携して周辺調査、地域住民への注意喚起を図ります。

### 3 県民の皆さんへのお願い

現在、クビアカツヤカミキリは成虫が繁殖行動を起こす最盛期に入っています。

このカミキリは、サクラやモモ・ウメなどバラ科の樹木を好みます。成虫が樹木の中に卵を産み付け、幼虫が木の内部を食い荒らすことで、木を弱らせたり倒木などの被害を発生させます。

県内での被害を防止するには、何よりも早期発見・早期防除が重要です。県民の皆様には、クビアカツヤカミキリや疑わしいフラスを発見した場合、県または地元自治体窓口への通報にご協力をよろしくお願いいたします。

《できればメールで》

- ・成虫、フラスの発見日時・発見場所・発見時の状況を連絡してください。
- ・できれば写真を撮影して提供願います。
- ・成虫を捕まえた場合は、その場で殺処分してください。
- ・死んでいる個体でも、見つけた場合は連絡をお願いします。

《県の通報先》

兵庫県環境部自然鳥獣共生課（電話 078-362-3389）

メールアドレス shizenchoujuu@pref.hyogo.lg.jp

通報フォーム



（参考）特定外来生物とは・・・

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（外来生物法）に基づき、生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来生物として環境省が指定した生物。指定されると、原則として、飼養、栽培、保管等が禁止され、防除の対象。このため、生きたまま持ち運ぶことは禁止。

## 【参 考】

### クビアカツヤカミキリの特徴

全国各地で侵入が確認されているクビアカツヤカミキリは、人体に害はない昆虫であるが、サクラやモモ・ウメなどバラ科の樹木の中に入り込み、木の内部を食い荒らすことで、農業被害や倒木などの被害を発生させる。

- 黒い体に赤い首、体長は2～4 cm
- 大変繁殖力が強く、成虫は5月末～8月に活動、樹皮に最大で1000個近くの卵を産む。
- 幼虫は、樹木の内部を食い荒らし、フラス（木くずと幼虫が出す排出するフンが混ざったもの）を大量に出しながら2～3年かけて成長する。このため、食害が進むと樹木が枯死し、ウメ・モモなどの果樹園では、農業被害の発生、公園や街路樹等では倒木などの被害の発生が懸念される。

